

第3回 村上市地域公共交通活性化協議会 会議録

1. 開催日時：平成26年2月13日（木） 午前10時00分から午前10時30分

2. 開催場所：村上市生涯学習推進センター 2階大・中会議室

3. 出席者：（※敬称略）

【出席委員】 大滝会長、田巻(耕)委員、小田(修)委員、掛井委員（山本建設監督官代理出席）、羽深委員、渡邊委員、長谷部委員、板垣(藤)委員、横井委員、板垣(俊)委員、本間委員、小田(孝)委員、川崎委員、水野委員（大津専門官代理出席）、佐藤(健)委員、綱島委員、井上委員（石川管理係主任代理出席）、佐野委員、齊藤委員、山田委員

【欠席委員】 石塚委員、船山委員、松田委員、大嶋委員、佐藤(憲)委員、田巻(均)委員、益田委員、川内委員、板垣(圭)委員

【委員以外】 株式会社瀬波タクシー、坂町タクシー株式会社、藤観光タクシー株式会社、株式会社はまなす観光タクシー、新潟交通観光バス株式会社村上営業所（オブザーバー）

【事務局】 佐藤、太田、矢部、本間（村上市）

4. 傍聴者：1人

5. 会議次第

- 1 開 会
- 2 挨拶（会長）
- 3 委嘱状交付
- 4 議 事

〔協議事項〕

議題1 平成26年度 事業計画（案）について

議題2 平成26年度 予算（案）について

5 その他

6 閉 会（副会長）

6. 会議資料

【配付資料】 ◇議事次第 ◇出席者名簿 ◇配席図 ◇実証運行利用状況等

【議事資料】

報告1. 実証運行の実施状況について

議題1. 平成26年度 事業計画（案）

議題2. 平成26年度 予算（案）

参考資料 村上市公共交通実証運行利用実績

村上市路線バス学生運賃割引社会実験チラシ見本

まちなか循環バス・せなみ巡回バス共通回数乗車券（イメージ）

7. 会議経過

1 開 会

○事 務 局 長：ただいまから第3回村上市地域公共交通活性化協議会を開催いたします。開会に当たりまして、本協議会の会長の大滝村上市長からご挨拶を申し上げます。

2 挨 拶 (会長)

○会 長：皆さんおはようございます。第3回の村上市地域公共交通活性化協議会にご参加をいただきまして厚くお礼を申し上げます。皆さんご案内のとおり村上市は非常に11日から熱く燃えまして、記録づくめの銀メダルということでございますが、その対応等をやっております、マスコミに非常に多く取り上げられているところでございます。これから、村上市としては平野歩夢選手に対して何をするか、あるいはまた市民に対してどのようなことをやっていくかということを協議中でございますので、今後村上市としての対応を出していきたいと考えているところでございます。皆さんからもご声援いただきまして、心から感謝をいたすものです。ありがとうございました。さてこのたびの協議会は、今年度最終の協議会の予定であり、当協議会で実施しております実証運行の状況報告のほか、次年度事業計画並びに予算（案）を提案させていただいております。委員の皆様におかれましては、忌憚のないご意見を賜りまして協議をいただきますようお願いをいたしまして、開会の挨拶とさせていただきます。大変ご苦労さまでございます。ありがとうございました。

3 委嘱状交付

4 議 事

○事 務 局 長：本日の会議の出席でございますが、定数に達しておりますので、本協議会は成立いたします。なお、名簿番号5番、国土交通省北陸地方整備局新潟国道事務所、掛井計画課長様の代理といたしまして山本建設監督官様のご出席をいただいております。続きまして、名簿番号20番、国土交通省北陸信越運輸局企画観光部、水野交通企画課長様代理でございます大津専門官でございます。それから、23番、新潟県村上警察署、井上交通課長様代理、石川管理係主任様でございます。よろしく願い申し上げます。議事に入ります前に本日ご審議いただきます資料の確認を行います。不足がございましたら事務局に後ほどご連絡をお願いします。本日の資料でございますが、まず事前に配付してございます報告1、実証運行の実施状況について、ホチキスどめをされている資料でございます。それから、議題1、平成26年度事業計画（案）でございます。それから、議題2としまして、平成26年度予算（案）でございます。それと、本日皆様のお席に配付してございます議事次第、出席者名簿、配席図、それから直接本日の議題とは関係ございませんが、村上地域のまちづくり協議会で作成しました平野選手の号外をカラープリントしたものを配付してございます。よろしく願いいたします。それでは、議事に入ります。議長は、協議会規約の規定に基づき、会長が協議会の議長となることとしておりますので、これより会長におつなぎいたします。

〔報告事項〕

報告 1 実証運行の実施状況について

- 会 長：それでは、規約の定めによりまして、暫時の間私が進行をいたしますのでよろしくお願いをいたします。早速4番の議事に入らせていただきます。報告事項の報告1番、実証運行の実施状況についてを議題といたします。事務局から説明を願います。
- 事務 局：――資料 報告1に基づき詳細に説明――
- 会 長：ただいま報告事項の報告1番について説明がありましたが、皆さんからこれらについてご意見、ご質疑等ございましたらお願いします。特別ないようでございますので、これをもって報告を終わらせていただきます。

〔協議事項〕

議題 1 平成26年度 事業計画（案）について

- 会 長：続きまして、協議事項に入らせていただきます。議題の1番、平成26年度事業計画（案）についてを議題といたします。事務局から説明を願います。
- 事務 局：――資料 議題1に基づき詳細に説明――
- 会 長：ただいま議題1番の平成26年度事業計画（案）について事務局から説明がありました。これらについて皆さんからご意見、ご質疑等をいただきたいと思います。しばらくしてご意見、ご質疑ないようでございますので、議題1番、平成26年度事業計画（案）、ご承認させてもらってよろしゅうございますか。
- （異議なしの声あり）
- 会 長：それでは、異議なしと認めまして、平成26年度事業計画（案）はご承認をさせていただきます。ありがとうございました。

議題 2 平成26年度 予算（案）について

- 会 長：次に、議題の2番、平成26年度予算（案）についてを議題といたします。事務局から説明を願います。
- 事務 局：――資料 議題2に基づき詳細に説明――
- 会 長：ただいま議題の2番の平成26年度予算（案）について事務局から説明がありました。これらについて皆さんからご意見、質疑等をいただきたいと思います。
- （いいですかの声あり）
- 会 長：はい、どうぞ。
- 委員 員：単純な質問なのですが、公共交通の予算でありますけれども、協議会での取り組みをする前と今では、交通関係で予算はどれくらいふえているのか、減っているのか、ひとつお願いいたします。単純な質問なのですが。
- 会 長：どうぞ、事務局。
- 事務 局：大ざっぱにお話しさせていただくと、これまでのバス運行のみでやっていたときで約1億5,000万ほどになっていたものに新たな公共交通の取り組みというところで、現在は上乗せするような形で4,000万ぐらいですので、トータルで2億弱という金額になっております。
- 委員 員：私の個人的な考えなのですが、全体的に今2億近いですよ。要は全体

的に1億5,000万の予算で運行していると、私はずっと考えていたわけですが、4,000万というプラスになるのですね。そういうふうなことで、せつかくの予算を削ってうまくいくかなと思ったら逆にになっている。これ予算関係でどうしてもこういう形でオーバーしなければならないのでしょうか。何とかして1億5,000万の中で運行できないものか。どうですか。そうすると、村上市意欲もあるし、予算関係も安くできる、そういう考えでいたのですが、逆にふえてきているのです。やっぱりこのままいかなければならないですか。

○会

長：どうぞ。

○事

務

局：委員のおっしゃることはもっともな部分があるのですが、もともと路線バスにつきましては当然営業ベースでやられていたところがだんだん赤字になってきまして、なかなか維持できないということで公共団体のほうからお願いして維持していただいているという現状はご存じのとおりだと思います。現在、村上市に残っているバスの路線なのですけれども、こちらがかなり主要なところを通っている長距離区間が多いということを考えますと、早急な廃止というのはなかなか難しく、予算上の圧縮というのは難しい。ただし、交通空白地域があるということはそちらのほうの解消も図らなければならない。この両方の形になっております。そこで、私どもとしましてはいかにしてバスの利用者層、主要交通機関のほうの利用をふやすことで歳出を圧縮できるか、こちらのほうに主眼を置きながら、なおかつ交通空白地域となっております公共交通機関が走っていない部分、その部分の住民の方をどうするかということを両方考えておきまして、現在の予算執行でやっております。できる限りこの予算をふやさず、なおかつその歳入部分といいますか、利用者をふやすことで歳入部分をふやすことで予算の圧縮ができればというふうに考えておりますし、またその目標を持って取り組んでいくという状況でございます。

○委

員：一応理解はいたしますが、要は何も予算を分けないような体制で済んでいきたいと思っているのです。ここに新潟交通さんもおられますが、言いたくないのですけれども、実際に乗っている方は少ないです。だから、それを何とか継続できる公共交通関係でデマンドタクシーとか、そういう体制を私言いたいののですが、廃止とかではなくても、何とかデマンドタクシーをふやしながら予算をふやさないでやっていただきたいと私思っているのです。難しいか、これは。どうでしょう。

○事

務

局：重複するような形になりますが、とにかく予算をふやさないというのは私どもも命題として持っております。ただし、このたびにつきましては消費税の増税等で若干延びている部分、これは否めない部分がありますが、これ以上延ばさないということは基本的に考えております。さらに圧縮をかけられる部分は圧縮をかけたい。方法としましてはやはり利用者の促進、デマンドタクシーにつきましても同様のことが言えるかと思っております。今現在収支率がまだまだそれほど高くない状況もありますので、両方の部分につきまして収支率をどんどん上げていくようなPR等の取り組みを進めていきたいと、ひいては予算の圧縮につながるように努力

してまいりたいと考えております。

○委員：私の言っていることは、デマンドタクシーとかでタクシー会社おられますよね、地域の。こういうものを大事にしていく体制を考えてきたのです。だから、それもしっかり頭に入れていただきながら、なるべく予算をかければ幾らでもできますけれども、今予算、予算というのでいろんなところで四苦八苦していると聞いておりますので、よく考えていただきながら、ひとつ計画をよろしくお願いいたします。以上です。

○会長：大変貴重なご意見をいただきました。ありがとうございます。ほかにご意見ございますか。ほかにご意見ないようでございますので、議題の2番、平成26年度予算（案）についてはご承認させていただいてよろしゅうございますか。

（異議なしの声あり）

○会長：ありがとうございます。それでは、議題の2番、平成26年度予算（案）についてはご承認させていただきます。ありがとうございます。

5 その他

○会長：5番、その他でございますが、事務局からありましたらお願いします。（ございませんの声あり）

○会長：皆さんからその他何でも結構でございますが、ございましたらお願いいたします。ないようでございますので、議事はこれで終了させていただきます。大変ありがとうございます。

○事務局 長：長時間皆様におかれましては慎重審議まことにありがとうございます。最後に、閉会の挨拶を副会長の長岡技術科学大学、佐野准教授様にお願いいたします。

6 閉会（副会長）

○副会長 長：佐野でございます。おはようございます。きょうは朝からお集まりいただきありがとうございます。近々学割ということで高校生、中学生が半額と、非常に画期的なシステムで、ただ人数がふえなければ、それは収入が半分になるので、これを成功させるためには2倍とはいかなくても、ある程度乗車人数がふえないとやる意味がないので、皆様やはり周知といいますか、そこが重要ですので、この取り組みが成功して多くの方に広がるような感じでうまくいっていただければと思います。あと、来年度の事業計画に対して新しいものもあるのですが、結構現行のまま継続実施みたいなのが、少し軌道に乗ってきたという面もありますし、少しちょっとルーティンワークになったという部分もあると思いますので、例えば今日いただいた実績みたいなものでも昨年との比較がないと、データも季節変動とかいろいろあって、毎月ごとでとられることはなかなかないので、昨年度との比較みたいなものもあるといろいろチェックも効きやすいのかなと思いますので、その辺もよろしくお願いたしたいと思います。これで閉会の挨拶とさせていただきます。どうも本日はありがとうございます。

○事務局 長：ありがとうございます。これをもちまして本日の会議の全日程を終了いたします。長時間まことにありがとうございます。

（午前10：30終了）